

製品名		水素					国連番号		1049											
化学名		水素					SAMPLE													
該当法法規対応・危険有害性															道路法					
消 防 法						毒物及び劇物取締法			高圧ガス保安法											
類 別						指 定 可 燃 物	品 名 (法別表)	毒 物	劇 物	特 定 毒 物	一 般 高 圧 ガ ス	液 化 石 油 系	施行令第19条 の12、13							
第1類	第2類	第3類	第4類	第5類	第6類													●		●
特 性	危 険 性			有 害 性					環 境 汚 染 性		性 状									
	禁水性	爆発性	可燃性	有 害 ガ ス 発 生			目・皮膚に 触れると危険	河川への 流入注意	固 体	液 体	気 体	水 溶 性								
				常 温	可 燃 時 火 災 時	水 に 接 触										●				
		●	●									●								
<b>事故発生時の応急処置</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 車両を安全な場所に移動する。(人家や人ごみを避け、エンジンを停止し、車止めをする。)</li> <li>② 事故の発生を大声で告げ、付近の人を風上に避難させる。</li> <li>③ 付近の着火源を取り除き、かつ、静電気、火花等による着火に注意する。</li> <li>④ 容器を覆っているシート等を取り除き、ガスを大気に放出・拡散させる。</li> <li>⑤ 風上より災害拡大防止措置(消火、漏れ止め、容器冷却、容器移動等)を行う。 災害拡大防止措置が困難な場合は、自らすみやかに避難する。</li> <li>⑥ 下記事項を消防署、警察署に通報する。</li> <li>⑦ 関係機関(荷主会社、運送会社、地域防災組織等)へ連絡する。</li> </ol>																				
<b>緊急通報</b> 119(消防署)・110(警察署)・高速道路の非常電話  {緊急通報例} 1. いつ ○○時○○分頃 2. どこで ○○市○○地区(国、県、市)道○○号線○○付近で 3. なにが 『水素(高圧ガス・可燃性ガス)』が 4. どうした 漏れています。/漏れて火災になっています。 5. ケガ人は ケガ人がいます。(救急車をお願いします)/けが人はいません。 6. 私の名前は ○○運送会社 ○○です。																				
<b>緊急連絡</b> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">荷送会社</td> <td style="width: 50%;">運送会社</td> </tr> <tr> <td>住 所</td> <td>住 所</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電 話</td> <td>平日・昼間</td> </tr> <tr> <td>休日・夜間</td> </tr> </table>														荷送会社	運送会社	住 所	住 所	電 話	平日・昼間	休日・夜間
荷送会社	運送会社																			
住 所	住 所																			
電 話	平日・昼間																			
	休日・夜間																			

製品名	水素	国連番号	1049
化学名	水素	SAMPLE	

## 災害拡大防止措置

### <漏えいしたとき>

- ① 通風を良くしてガスが滞留しないようにする。
- ② 防災工具を用い、風上より容器バルブ又は漏えいしている部分を静かに増締めし、漏れを止める。ガス取出口から漏えいしているときは、パッキン及び口金キャップを取り付ける。
- ③ 漏れが止まらない時は、着火源を避け、通風の良好な安全な場所で大気に拡散させる。

### <周辺火災のとき>

- ① 容器を安全な場所へ移動する。
- ② 移動することが不可能な場合は、容器及び周囲に散水する。

### <発火したとき>

- ① 近くに着火源がなくガスが滞留しない安全な場所で、風上より消火し、漏えい防止処置を施す。
- ② 容器の温度が高い場合は、発火している容器及び周辺の容器に噴霧散水した後、周辺の容器を安全な場所に移動する。
- ③ (その他の処理方法)  
周辺及び漏えい状況等から判断して、消火するとかえって危険性が増すと考えられるとき等は、火災の拡大・類焼を防止するため、周辺に噴霧散水しながら、容器内の水素ガスがなくなるまで燃焼させる。

### <救急処置>

- ① (火傷の処理)  
水を用いて、患部を冷やし、できるだけ早く医師の手当てを受ける。
- ② (酸欠の処置)  
新鮮な空気のある場所に移す。呼吸困難な場合は酸素吸入を施す。できるだけ早く医師の手当てを受ける。

### 特記事項

- ① ガスが漏えいした場合、空気中の濃度が4%を越えると、火災や爆発の危険が生じるので、ガスが覆っているシート内に滞留しないよう注意する。非常に軽いガスで、漏れると上部に滞留または拡散する。
- ② 低い着火エネルギーで簡単着火するため、火炎だけでなく、高熱物、化繊材の服の静電気や工具使用時の火花等の着火源にも注意が必要である。
- ③ 漏えいし、着火していても、炎がみえにくいため火傷に注意するとともに、漏えいの状態をしっかりと確認しておく必要がある。
- ③ 容器内充てん圧力 : 35℃で14.7MPa (19.6MPa) [ゲージ圧力]  
爆発範囲 : 4~75% (空気中)  
相対密度 : 0.07 (空気より非常に軽い)  
色・臭い : 無色・無臭